

暮らし・定住部会

◇ 部会の経過

日 時 ・ 場 所 等	内 容
第1回暮らし・定住部会(第4回市民会議) 平成24年4月18日(水) 18:30~20:30 野幌公民館 ホール	マトリックス(縦軸にハード・ソフト・ハートづくり、横軸に短期・中期・長期)に第1回~第3回市民会議で出された意見を整理。
第2回暮らし・定住部会(第5回市民会議) 平成24年5月16日(水) 18:30~20:45 野幌公民館 研修室2号	姉妹都市・友好都市、情報図書館に関する資料について、事務局から説明。 第1回部会で整理したマトリックスをもとに、各会各層からの新規意見も踏まえて、まちづくり政策・戦略テーマを検討。
第3回暮らし・定住部会(第7回市民会議) 平成24年7月27日(金) 18:30~21:10 市役所 西棟会議室1号・2号	第6回市民会議(全体会議)での意見交換を踏まえて、まちづくり政策・戦略テーマをさらに議論。意見の絞り込みを行い、戦略テーマを決定。
第4回暮らし・定住部会(第8回市民会議) 平成24年8月29日(水) 18:30~21:10 市役所 市長公室	まちづくり政策・戦略テーマを提言書にまとめるため、第3回部会の結果をもとに作成した提言書のたたき台について議論。
第5回暮らし・定住部会(第9回市民会議) 平成24年9月11日(火) 18:30~20:45 市民会館 21号室	まちづくり政策・戦略テーマを提言書にまとめるため、第4回部会の結果をもとに作成した提言書のたたき台について議論。

◇ 部会委員の構成

氏 名	所 属 ・ 職 名 等
千里 政文	部会長・有識者委員 北翔大学大学院 生涯学習学研究科 教授
大作 美佳	市民委員
神 千 加	市民委員
諏訪部 容子	市民委員
富沢 裕司	市民委員
松本 教子	市民委員
水野 功	市民委員

◇ 部会長報告（議論の概要や方向性、部会の想いなど）

暮らし・定住部会は、江別全市民が暮らしやすく、住む魅力に溢れるまちにすることが重要である。部会では、市民会議で出された意見を分類化し、「子育てしやすいまちづくり・学べるまち・暮らしの情報発信・住まいづくり」を戦略テーマとし実現への方策として検討している。

現在、江別市は少子高齢化の影響もあり、平成17年をピークに人口が減少しており、早急な少子高齢化対策が必要である。減少を止めるためにも、子育てしやすいまちづくりや、空き地・空き家対策は特に重要である。また、江別市には4大学・2短大があることから、多くの学生が生活しており、大学施設の活用、教育機関の連携による学べるまちづくりが考えられる。さらに、市民会議からの意見として、暮らしに役立つ情報などが、市民に上手く伝えられておらず、情報発信の拠点が必要ということが挙げられている。このことは、市民が暮らす上で必要不可欠な情報や、困難を抱えた時の相談場所などの情報を得るシステムなどにも不備が考えられ、暮らしやすく、赤ちゃんから高齢者まで誰もが長く住みたいと望まれるまちにするという点において非常に重要であると考えます。

これまでに議論され、提言が行われたことにより、市民の意見を実際に行う為のシステム作りが大切である。特に市民、自治会、市民活動団体、大学、事業者等と行政とが、共に考え、意見や知恵を出し合いながら反映させ、具体的に実現させてゆく仕組み作りが必要であり、継続的に行う事が重要である。

暮らし・定住部会 部会長 千里 政文

1. まちづくり政策提言

～ 暮らし・定住分野におけるまちづくり全体の方向性（マトリックス図参照）

(1) 短期的な取り組み

ハード	<ul style="list-style-type: none"> ① 子育て支援体制 (例. 保育園の待機児童対策と利用時間の拡大、一時預かり事業の対象年齢拡大、子育て支援施設、認定こども園の増設、病児・病後児保育の充実) ② 情報発信の拠点づくり (例. 情報図書館の活用、情報の共有やネットワーク化) ③ 教育特区などによる魅力的な学校づくり (例. 中高一貫校、コミュニティ学校の設置) ④ 若年層が土地を購入しやすい仕組みづくり
ソフト	<ul style="list-style-type: none"> ① 教育特区などによる魅力的な学べるまちづくり (例. 放課後の教育環境の充実、小学校での英語教育の充実、高校生の大学講義への参加、保育園での自然体験型の行事、海外留学生の積極的な受け入れ、低年齢からの国際的交流や学習、江別の歴史教育) ② 市内外への地域情報・生活情報の発信 (例. 江別のブランドイメージをつくり広く発信、公共施設・大学関係などの情報の共有・ネットワーク化、分かりやすい子育て支援情報の発信、市内イベントの積極的な広報と周知を目指す、市長ブログ・ツイッター・フェイスブック・新聞などを活用したPR、安全なまちづくりを進めてPR) ③ 働きながら子どもを産んで育てられるまちづくり (例. 子育て支援センターの開館時間の延長、学童保育の受け入れ時間の統一と延長、障がい児保育の充実、医療費負担の軽減、産婦人科・小児科の充実、保育ママ制度の導入、幼児教育施策の充実、乳幼児期の施策を統括する部署の設置、就学前児童と高齢者や地域との交流)
ハートづくり	<ul style="list-style-type: none"> ① 子どもをいっぱい産んで育てたいと思えるまちづくり (例. 民間保育園の保育士の加配、「障がい児保育」を「特別支援保育」へ名称変更、消防のレスキューマンを活用したPR、ママさんネットワークの活用) ② 教育環境の充実 (例. 特認校である野幌小学校の特色を活用、子どもの立場に立った学校の統廃合) ③ 市内外への地域情報・生活情報の発信 (例. 環境重視や安全・安心をテーマとしたシティプロモート、ごみ収集カレンダーを活用したイベントの案内、河川防災ステーションのネーミングを募集し江別をPR)

(2) 中期的な取り組み

ハード	① 空き地、空き家対策 (例. 大麻地区の住み替え対策、市営住宅の空き室の改修、大学生に安い家賃で空き家を提供し、近所の高齢者と交流)
ソフト	① 市内外への地域情報・生活情報の発信 (例. 江別の住みやすさをPR、小中学校の優れたスポーツ・芸術活動に関する情報発信、公園の特色をまとめたマップづくり、予防接種の個別通知、海外の都市との姉妹都市提携によるPR) ② 働きながら子どもを産んで育てられるまちづくり (例. 土、日の予防接種の実施、子どもの遊び場の充実、火が使える公園の整備) ③ 少子高齢化対策
ハートづくり	① 情報図書館を情報の発信源に活用

(3) 長期的な取り組み

ハード	① 小学校の統廃合は周辺環境も含め、慎重かつ計画的に行う ② 教育環境の充実 (例. 進学校づくり、各教育機関が持ついろいろな機能を集積)
ソフト	① 学校を中心としたまちづくりネットワークの構築
ハートづくり	① 子どもの学力の向上 (例. 優秀な教員の確保、教員の指導力の向上)

2. 戦略テーマ提言

戦略テーマ名											
子育てしやすいまち											
どんな状態にしたいのか											
<p>少子高齢化による人口減少がおきている江別市にとって、子どもを産んで育てたいと思えるまちづくり、すなわち安心して子どもを産み、育て、仕事ができるまちづくりが、江別市の未来において大切である。そのためには多くの支援体制が必要である。さらに、子どもは成長が早いいため、短期に問題を解決し、中・長期に継続して行う必要がある。</p>											
立案背景											
<p>市民会議の意見にも子育てに関する事が多く、保育園、学童保育、特別支援（障がい児）の保育、予防接種、遊び場の充実、子育て支援、費用等の充実などが挙げられている。また、江別市の保育所入所待機児童数が0人であるにも関わらず意見要望が多い。さらに学童保育についても費用、時間、場所等のマッチング等に問題があると考えられる。平成23年度実施の市民アンケートにおいて「将来の江別市のイメージについて」、回答者の41.4%が「子育て応援のまち」を望むと選択しており、さらに選択した10代～40代は全体の52.8%と過半数を超える結果となっており、その重要性が伺える。</p>											
立案に関するデータ											
○ 保育所入所待機児童数の状況（道内他都市との比較）											
指標名	調査年	単位	江別市	札幌市	小樽市	北見市	岩見沢市	千歳市	恵庭市	北広島市	石狩市
保育所入所待機児童数	平成21	人	0	402	0	0	0	0	0	0	48
○ 保育園（11か所、定員計1,005名）											
<ul style="list-style-type: none"> 一時預かり（2歳児から）の対応：4園 一時預かり（1歳7か月児から）の対応：1園 障がい児保育の対応：5園 											
○ 認定こども園（2か所、定員計35名）											
○ 病児・病後児保育実施機関（1か所）											
○ 学童保育（放課後児童会）（20か所、定員計671名）											
<ul style="list-style-type: none"> 開所対応時間（学校休業日。延長含む） 7時～：2か所、7時30分～：1か所、8時～：13か所、8時30分～：1か所、9時～：3か所 閉所対応時間（延長含む） 17時まで：2か所、18時まで：2か所、18時30分まで：5か所、18時45分まで：1か所、19時まで：8か所、19時30分まで：2か所 											
○ H23年度実施 まちづくり市民アンケート結果（5,000人対象）											
<p><あなたが望む将来の江別市のイメージ（複数回答）></p> <ul style="list-style-type: none"> 回答者の41.4%が、「子育て応援のまち」を選択 「子育て応援のまち」を選択した女性：43.8% 「子育て応援のまち」を選択した10代～40代：52.8% 											

戦略テーマ実現への方策

【短期】

1 ハード

- ① 子育てしやすいまちにするには、子育てするための支援環境の整備が必要である。働きながら子どもを産んで育てるためには、保育園、認定こども園、病児・病後児保育実施機関、学童保育等の施設が重要であるが、ただ施設を増やすだけではなく、利用者の実態に合わせた設置・運営をすること事が大切である。それを行政も連携してサポートする必要がある。

2 ソフト

- ① 働きながら子育てするには、就業と子育てをわかりやすくフォローする行政の関わりが重要である。例えば現在、別々になっている市役所の保育園担当部門と幼稚園担当部門を、乳幼児期を総合的に考える部署として設置する。さらに、子育て支援センターを充実させ、利用時間の延長や土日祝日の開館を行い、就業している親も利用できる様にする。
- ② 保育園、認定こども園、学童保育等の利用時間の延長、未満児の受け入れ態勢、利用費用、魅力の向上が必要である。（就業後に子どもを迎えに行く時間が足りない、利用状況により、料金がパートの給料を超える場合や料金格差がある。）
- ③ 保育園児童の高齢者施設の訪問等の地域交流や、高齢者や学生ボランティアによる世代間交流を推進する。
- ④ 障がい児保育の更なる充実、障がいの疑いがある子への支援体制について、わかりやすく紹介するなど、障がい児支援を充実させる。
- ⑤ 現在行われている予防接種（子宮頸がんなど）を継続し、さらに医療費助成の年齢拡大について検討する。かかりつけが厚別区の小児科など近隣であっても、江別市以外では無料で予防接種が受けられない為、自費で受けるか、初めて行く小児科で予防接種を受けなければならず、持病がある場合など親の判断も難しい。医療費助成の地区緩和と同様に検討する。

3 ハートづくり

- ① 学童保育の定員拡大と学童保育自体の魅力の向上

【中期】

1 ハード

- ① 子どもが安全に遊べる公園づくりを推進する。親、自治会、市民活動団体、大学、高齢者等が連携して見守りを行い、行政が自治活動を支援する。
- ② 湯川公園に火気使用が可能な場所（炭や薪が使用できる公園は森林キャンプ場のみ）の整備について検討する。

2 ソフト

- ① 江別には雪や雨天時に遊べる施設がないため、市民体育館等の既存の屋内施設を使い、子どもたちが自由に走り回って遊べるように開放できる場所や時間を増やす。
- ② 江別には4大学・2短大や現役・退職教員など有識者も多く、市民、自治会、市民活動団体、大学、事業者等と行政が一体となった、独自性のある子育て施策を行う。
- ③ 土日の予防接種を実施する。

3 ハートづくり

- ① 短期計画の成果を検証しつつ、継続的に行う必要がある。

【長期】

1 ハード

- ① 短期・中期計画の成果を検証しつつ、継続的に行う必要がある。

2 ソフト

- ① 短期・中期計画の成果を検証しつつ、継続的に行う必要がある。

3 ハートづくり

- ① 短期・中期計画の成果を検証しつつ、継続的に行う必要がある。

戦略テーマ名

暮らしの情報発信

どんな状態にしたいのか

江別市では多くの情報が発信されている。しかし、PR不足に関する意見が多く出ている。これは情報が上手く集約され、発信されていないためと考えられる。すなわち、情報を伝えるためには情報発信の拠点と、情報を受け取りやすい環境を整える必要がある。

立案背景

江別の情報を市内外に発信する方法として、新たに施設を作るのではなく、現在ある情報図書館を整備し活用する方法が考えられる。江別市には情報図書館の他に分館、道立図書館、4大学の図書館があり、さらに公共施設と情報の共有、ネットワーク化することで、より多くの人々に伝えることができる。現在は市民、自治会、市民活動団体、大学、事業者等、様々な場所からバラバラに発信されており、それらを行政がサポートしながら連携して伝達するシステムづくりが必要である。

立案に関するデータ

○ 江別市を紹介するパンフレット

- ・「江別市暮らしの便利帳 2011」
(全戸、転入者へ配布)
- ・江別市勢要覧「江別」
(希望者、視察等の説明の際に配布)
- ・「えべつタウンマップ」
(市民課・大麻出張所(転入届出時)、各公民館、JR市内各駅、地下鉄大通駅、さっぽろ広域観光圏インフォメーションセンター、札幌市東京事務所、厚別区役所、「食と観光」情報館(JR札幌駅)などで配布)
- ・「えべつのじかん」
(地下鉄大通駅、札幌市東京事務所、厚別区役所、「食と観光」情報館(JR札幌駅)、さっぽろ広域観光圏インフォメーションセンター、北海道移住促進協議会、札幌市内幼稚園・保育園(白石・東・厚別・北・清田)、住宅展示場などで配布)
- ・「ちょこっとりっぷえべつ 2012」
(札幌市内の各幼稚園、保育園などで配布)
- ・「えべつコレクションV o 1. 4 2012年7月」(江別観光協会)
(市内公共施設、市内JR各駅、防災ステーション、自然ふれあい交流館、野幌総合運動公園などで配布)
- ・「えべつ農産物直売所・貸し農園MAP」(江別市「まち」と「むら」の交流推進協議会)
(公民館、防災ステーション等の公共施設、農産物直売所、農産物直売所ツアーなどのイベント時などで配布)
- ・「学生が魅せる江別 創刊 えべべんちゅ」(江別四大学合同サークル えべべんちゅ編集部)
(市内4大学、市内飲食店等で設置してもらえるところを学生が自らの足で探して配布)

戦略テーマ実現への方策

【短期】

1 ハード

- ① 現在ある情報図書館を整備し、情報の発信拠点として365日24時間活用する。さらに公民館内の情報図書館分館、道立図書館、4大学の図書館、公共施設と情報の共有、ネットワーク化する。特に市民、自治会、市民活動団体、大学、事業者等、様々な場所からバラバラに発信された情報を集約し、伝達する。さらにミニFM局を開設することで、地域の情報に加え、水害や地震等の防災情報をリアルタイムで情報発信する。
- ② 市内バスの外装を活用したイベント等の情報発信、停車ボタンの音などでえべちゅんを活用するなど江別をPRする。

2 ソフト

- ① イベント、公共施設、大学開放などの共有・ネットワーク化した情報発信には、パンフレットやポスター、広報紙、新聞などの紙媒体をはじめ、ラジオ、テレビ、ホームページ、フェイスブック、ツイッターでのPR、イベントの実施予定をごみ収集カレンダーに記載するなど様々な情報発信を行う。
- ② 市立病院の出産費用が安く安全である、各科の充実など、子育て支援情報を市民にもっとわかりやすく提供する。
- ③ 江別に住んでもらうための生活情報の発信が必要である。例えば、転入者へ江別居住の理由を調査し、江別の長所を探り情報発信をする。市長ブログなどによる政策の発信をする。学校開放の利用窓口のPRをする。優れたスポーツ芸術活動の情報発信をする。江別に住み始めた人への江別の地域情報の発信をする。「江別」のブランドイメージをつくり発信する。市内イベント等の積極的な広報により周知させる。江別を知ってもらい遊びに来てもらうための情報発信をする。えべちゅんにより煉瓦のまち江別の歴史をPRするなど様々な情報がありそれらを発信する。
- ④ 安全・安心なまちづくりを進め、江別の「安全」をPRする。安全・安心をテーマにしたシティプロモートの実施や、消防のレスキューマンによるPR、公共施設の耐震化を進め、公表し、江別の安全性をアピールする。河川防災ステーションのネーミングを募集し江別をPRする。

3 ハートづくり

- ① ママさんネットワークを市が情報発信に活用する。
- ② 子どもの安全・安心を守るため、特に不審者情報など、各児童施設・保育園・学校からの情報を広く得られるようにする。
- ③ 江別市のごみ分別状況が良いことから、環境重視のまちづくりを進め、エコのイメージを発信する。

【中期】

1 ハード

- ① 短期計画の成果を検証しつつ、継続的に行う必要がある。

2 ソフト

- ① 江別の住みやすさ、海外（グレシャム市）・国内（土佐市）の姉妹・友好都市のPR、市内公園の特色やトイレ等の環境をまとめたマップづくり、予防接種の個別通知など、市内外へ向けた江別の生活情報発信を継続的に行う。

3 ハートづくり

- ① 短期計画の成果を検証しつつ、継続的に行う必要がある。

【長期】

1 ハード

- ① 短期・中期計画の成果を検証しつつ、継続的に情報発信を行う必要がある。

2 ソフト

- ① 短期・中期計画の成果を検証しつつ、継続的に情報発信を行う必要がある。

3 ハートづくり

- ① 短期・中期計画の成果を検証しつつ、継続的に情報発信を行う必要がある。

戦略テーマ名	
学べるまち	
どんな状態にしたいのか	
<p>保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学、短期大学が連携し、さらに市民が参加することにより、文教のまちとしてのイメージをつくり、子どもから高齢者まで世代間を超えた交流ができるまちづくりを行う。</p>	
立案背景	
<p>江別市には、5つの高等学校、4つの大学、2つの短期大学あり、これらを江別のまちづくりに活用する事により「学べるまち」を目指す。</p>	
立案に関するデータ	
<p>○ 高等学校、大学の状況（平成23年5月1日現在）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高等学校数：公立3校（生徒数：3,061名）、私立2校（生徒数：1,686名）、 合計5校（生徒数計：4,747名） ・ 大学数：私立4校（学生数：10,786名）、私立短期大学部2校（学生数：488名） 合計6校（学生数計：11,274名） 	
戦略テーマ実現への方策	
<p>【短期】</p> <p>1 ハード</p> <p>① 江別市内には私立大学4校、短期大学2校が比較的近い地域にあり1万人以上の学生が学んでいる。高等学校も公立3校、私立2校あり、5千人近い生徒が学び、さらに江別市情報図書館と分館、道立図書館があり、教育施設が充実している。これらを活用し教育特区などをつくり、小学校、中学校、市民も含めた連携型の生涯学習等を行う。</p> <p>2 ソフト</p> <p>① 教育特区をつくる事により、市民や高校生が大学の授業に参加できる教育、少人数教育、学力向上・スポーツ・音楽などの魅力的な学校づくり、小学校の英語教育の充実、江別の歴史教育の充実、農地や自然を活かして体験型の教育やイベントの充実、海外留学生を積極的に受け入れることにより国際化への対応、市内小中学生との交流、保育園で英語教育を実施など幅広い学習を行う。</p> <p>② 年齢に関係なく生涯にわたって、望む時に自由に学べる環境を整える。費用の低額化。</p> <p>3 ハートづくり</p> <p>① 少子化が進むと、学校の統廃合が避けられないが、子どもが困らないように配慮する事が最も重要である。さらに、学校がその地域から無くなることは、子育て世帯の流失、災害時における地域住民の避難場所が減る事にもつながるため、慎重かつ計画的に対応する。</p> <p>② 放課後の教育環境を充実させる。</p> <p>③ 学力低下や学習支援への協力体制、いじめやうつ等メンタルケアへの体制整備。（現在、スクールカウンセラーや臨床心理士は、相談できる曜日・時間が決められており、予約制となっているところも多いため、気軽に相談できず、養護教諭が補っている面が大きい。）</p>	

【中期】

1 ハード

- ① 空き教室の有効活用による地域住民との交流を行う。

2 ソフト

- ① 短期計画の成果を検証しつつ、継続的に行う必要がある。

3 ハートづくり

- ① 短期計画の成果を検証しつつ、継続的に行う必要がある。

【長期】

1 ハード

- ① 小学校の統廃合は周辺環境も含め、慎重かつ計画的に行う。

2 ソフト

- ① 学校を中心としたまちづくりのネットワーク構築が必要である。

3 ハートづくり

- ① 学校が連携し、いろいろな機能を持った教育機関の集積、教員の教育力・指導力・授業技術の向上を目指す。
- ② 進学校が札幌に多く、札幌に進学後は江別に戻らないのが現状であり、卒業後に江別に定住する仕組みの検討が必要である。

戦略テーマ名

住まいづくり（定住・空き家対策）

どんな状態にしたいのか

江別市の人口減少を止めるためにも、江別に定住するための仕組みづくり、空き家対策が必要である。

特に定住は、高齢になっても住む事ができるバリアフリー化が必要である為、長年住み慣れた家を手放し、利便性の良い都心のマンションや高齢者施設等に移る市民も少なくない。空き家が多くなることにより治安の悪化、積雪での倒壊の危険なども増すため、再利用する仕組みが必要である。

立案背景

江別市は、札幌に隣接し、古くから発展してきたまちである。しかし、平成17年をピークに人口が減少している。特に少子高齢化により、既存の住宅では高齢者の生活に配慮したものが少ない、公的な賃貸施設についても同様なうえに、エレベーターが無いものも多い。さらに人口減少の影響もあり、古くからある地域では空き地、空き家が増えている。

立案に関するデータ

○ 高齢化率の推移（江別市将来人口推計結果）

		総人口	高齢者人口(65歳以上)	
			人数	割合
実績値	平成12年	123,877人	18,837人	15.2%
	平成17年	125,601人	22,481人	17.9%
	平成22年	123,722人	27,030人	21.8%
推計値	平成25年	122,257人	30,868人	25.2%
	平成30年	119,046人	36,624人	30.8%
	平成35年	114,864人	40,785人	35.5%

（実績値は国勢調査）

○ 市街化区域における高齢化率30%以上の地区（平成22年国勢調査ベース）

<江別地区>

①条丁目：40.5%、②工栄町：30.8%

<野幌地区>

①野幌代々木町：32.8%、②錦町：30.1%

<大麻・文京台地区>

①大麻栄町：45.2%、②大麻東町：38.4%、③大麻高町：34.6%、④大麻沢町：32.7%、
⑤大麻中町：32.3%、⑥大麻北町：30.8%、⑦大麻園町：30.0%

○ 平成17年と平成22年の人口比較（国勢調査ベース）

<-200人未満>

元江別、見晴台、文京台、文京台東町

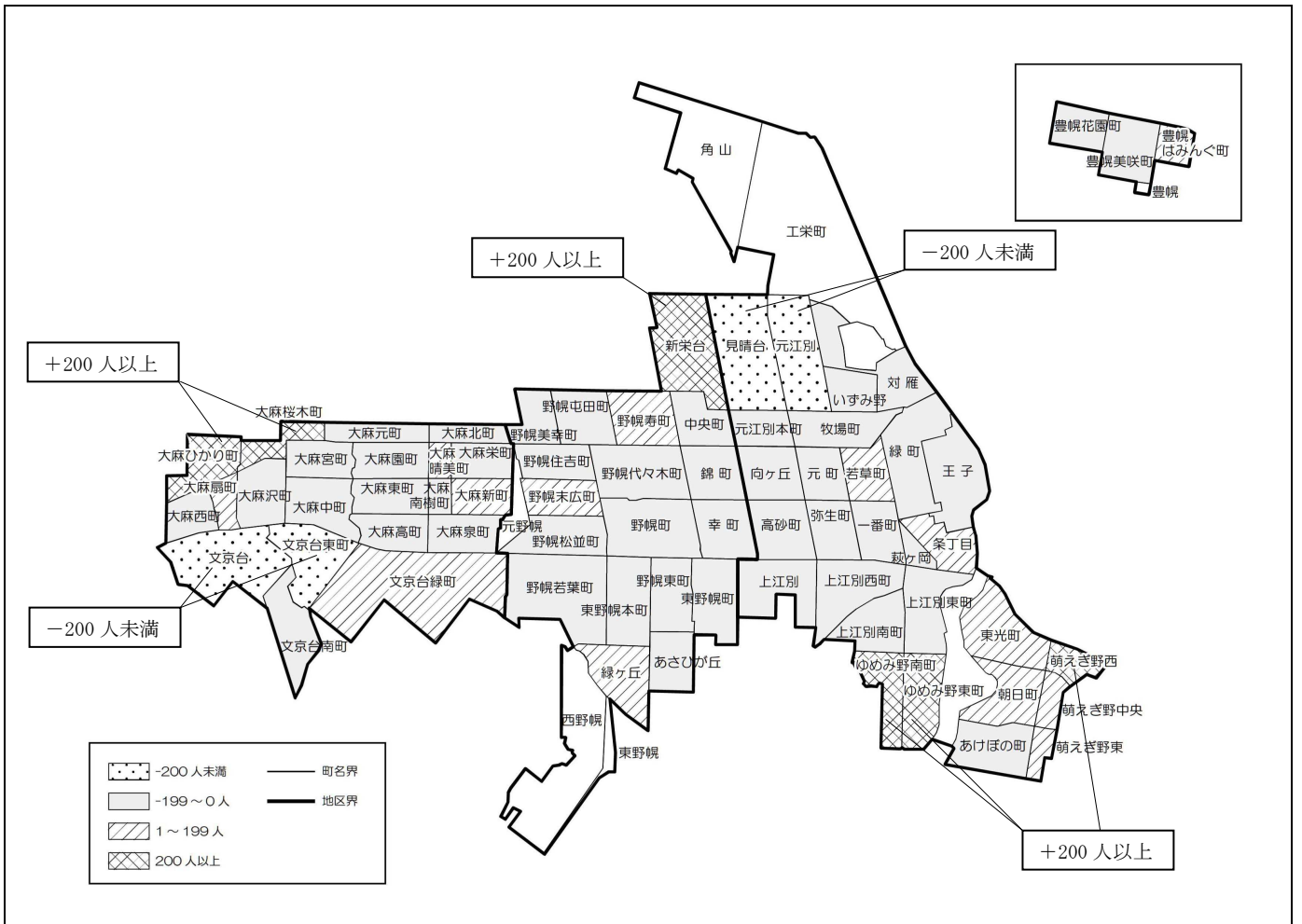
<+1人～+199人>

萌えぎ野中央、萌えぎ野東、東光町、朝日町、条丁目、若草町、野幌寿町、野幌末広町、緑ヶ丘、
大麻新町、大麻晴美町、大麻扇町、文京台緑町

<+200人以上>

萌えぎ野西、ゆめみ野東町、ゆめみ野南町、新栄台、大麻桜木町、大麻ひかり町

上記以外の地区は、-199人～0人。



戦略テーマ実現への方策

【短期】

1 ハード

① 高齢化率 30%以上の地区も多く、特にこれらの地区では若年層にも土地を購入しやすい仕組み作りが必要である。現在の空き地・空き家などの情報を把握し、地価の他にも、幼稚園・保育園、小中学校など子育てに必要な生活情報も市外からもわかりやすくする。また、新しく住まいを建てる場合は、子どもから高齢者まで長く住み続けられるユニバーサルデザインの住宅を推奨する。また、補助制度など公的なサポートも必要である。

2 ソフト

① 定住するための仕組みづくりが必要であり、高齢になり今までの住宅から住み替える際、市内のバリアフリー化してある市営住宅やマンションを紹介、子育て世代には、空いた一軒家を紹介するなど、市内からの人口流失を防ぐための、住みかえサポートを行う。また、少しでも今までの住宅で生活できる様に、専門家によるバリアフリーサポート体制をつくる。

【中期】

1 ハード

- ① 江別市内での空き家対策として、大学に近い大麻地区などでは、安い家賃で大学生に住んでもらい、大学生と高齢者の交流による対策も実施する。
- ② 市営住宅の改修による空室対策が必要であるが、エレベーターが無い建物や、段差などにより高齢者や障がい者が住みにくい住宅が多いためバリアフリー化が必要である。また、1階は高齢者のいる世帯を優先にし、高層階からの住み替えをサポートする。
- ③ 若年層の住み替えに伴う土地の有効利用のための規制緩和を検討する。

2 ソフト

① 江別の市街化区域における高齢者率は高くなっており、少子高齢化対策が必要である。高齢者の住まいでは古い住宅のバリアフリー化や若い世代に定住してもらうための仕組みづくりが必要である。

3 ハートづくり

- ① 江別は札幌に隣接したまちで、交通の便もよく、地価も安く、緑も多い良好な住環境で生活できるなど多くの良さがあり、これらの情報を市外にも伝え、江別への定住を進める。

【長期】

1 ハード

- ① 短期・中期計画の成果を検証しつつ、継続的に行う必要がある。

2 ソフト

- ① 短期・中期計画の成果を検証しつつ、継続的に行う必要がある。

3 ハートづくり

- ① 短期・中期計画の成果を検証しつつ、継続的に行う必要がある。